

世田谷区立給田小学校

学校運営委員会通信

平成23年度 第3号
平成23年9月12日
世田谷区立給田小学校
学校運営委員会
委員長 井上健

ちょっとだけ勇気を出して ボランティア活動に参加してみませんか？

議題

1. 学校長より
 - ・同窓会設立準備会の報告
 - ・放射線量の測定について
2. 委員より
 - ・サマースクール 図書室開放報告
 - ・夏休み中のボランティア報告
3. その他
 - ・「地域ボランティア」報告
 - ・長浜市からの視察、運営委員と教職員とのフリートークの会の内容検討

出席者

井上 若林 土屋 多田
程原 田中 渡邊 鈴木
土橋 片山 鶴岡 安部

7月19日、校長室にて第4回学校運営委員会が行われました。

最初に、土橋校長より同窓会準備会（学校運営委員会通信第2号に詳細掲載）と、放射線量の測定について報告がありました。『フルール・土壌・食材』について、世田谷区などで測定し、安全基準を満たしていますとのことでした。

次に、夏休み中のボランティアとサマースクールについて以下のような報告がありました。

「夏季水泳では、今年度新たに、受付ボランティアを募集しました。低学年保護者を中心に、複数日応募される方が多くいらっしゃいました。指導補助ボランティアでは、毎日のように申し込んでくださる方もあり、より充実した指導が期待できそうです。

サマースクールでは、家庭科の北沢先生、栄養士の南先生、給食室の調理師さん4人が講師として参加してくださいました。

今年度は特に、低学年対象の講座が少なく、申込みが集中してしまい、抽選を行った講座もありました。また、上祖師谷中学校の取り組みで、本校を卒業した生徒が、お手伝いに来てくれることになりました。

今年度も、前半後半1週間ずつ図書室開放を行います。地域の方4名を含む40名からボランティアの申し込みをいただきました。

続いて、6年生が総合的な学習の時間で行った「地域ボランティア」（関連記事2・3頁）での児童の感想などの報告がありました。

8月24日に実施予定の、長浜市立北郷里小、びわ北小による視察と、教職員とのフリートークの会の内容については、井上委員長と土橋校長に一任するのになりました。

最後に、給田でとれた「ごもごも」をいただきながら、子ども時代の思い出や給田小の未来についての話に花が咲きました。

ボランティアについて教えてください！

給田小学校では「給田小を支えるボランティアチーム（Qボラ）」を始め、運営委員会が募集したボランティアなどさまざまな個人・グループによるボランティア活動が活発に行われています。子どもたちも、1学期には「総合的な学習の時間」に地域でのボランティアに取り組みました。

Q そもそも「ボランティア」とは何が、その定義を教えてください。

Volunteer の語源は、ラテン語の voluntas（意志、自発性）にあるとされています。つまり、ボランティアとはそれぞれが自発的に行うことで、お互いが人間として助け合い、励まし合うことが原義と言えます。ボランティアという日本ではなぜか福祉的な分野に関連づけられ、無償性が強調されたりすることが多いのですが、必ずしもそうではありません。

欧米諸国の学校では、授業中、先生が

「Who's volunteer?」（誰か、やってくれないか）と子どもたちに語りかける場面を目にしますが、この問題がわかった人は、解いてくれない。「誰か、学芸会のリーダーをやってくれない」とも「Who's volunteer?」などです。



教えて！
井上先生

ボランティアは、人がやりたくないことを無償でがんばってやることでは決まてありません。また、その気になれば、ボランティアの機会は毎日の生活の中にたくさんあるものです。ですから、あまり狭く捉えないで、「自ら進んで行動すること」を大事にしてほしいと思います。子どもたちに「ボランティアをしなさい」と強制するのではなく、本末転倒なので、周囲の大人が上手に環境を整えてあげたいです。そのためには、私たちが「自ら進んで行動する」と、そして、そうした姿を子どもたちが自然と目にするのが重要です。

Q CSRとボランティアの関係はどのように考えれば良いでしょうか？

私たちが豊かに暮らしていくために、一人ひとりが自分のできることを考え、進んで行動することがボランティアであるならば、「みんなの学校をみんなが大切にしよう」というCSRはまさにボランティアの精神に通じた活動と言えます。大きな社会の転換期を迎え、さまざまな分野でボランティアの力が注目されていますが、それは共に支え、学びながら、力をあわせてよりよい社会や新しい価値をつくりあげていくことに違いありません。CSRのビジョンを手がかりに、ちょっとだけ勇気を出して、自分のできる活動にぜひ参加してみてください。きっと新しい世界が広がってくるはずです。

Q 「ボランティア」を募集する時や、活動をする時の注意はありますか？

（誰か、やってくれないか）と子どもたちに語りかける場面を目にしますが、この問題がわかった人は、解いてくれない。「誰か、学芸会のリーダーをやってくれない」とも「Who's volunteer?」などです。

地域ボランティアに取り組もう

～6年生・総合的な学習の時間～



鳥山駅前通りの商店街を歩いてみると、給田小学校の紹介をする子どもたちの放送を耳にされた方も多いのではないのでしょうか。

これは、給田小6年生の1学期の「総合的な学習の時間」の活動「地域ボランティアに取り組もう」の1コマです。そこで、この授業の内容や成果について、6年学年主任の安部克則先生にお話をうかがいました。



Q「地域ボランティアに取り組もう」という授業は、初めての試みだと思いますが、なぜ、このテーマを選ばれたのですか？

地域運営学校の給田小に赴任して今年で3年目になりますが、年々、コミュニティ・スクールについて考える機会が増えてきました。そして常に「3つのビジョン」を念頭に置き、子どもたち対象の内容を考えるようになりました。「地域ボランティア」は、ボランティアについて考え

活動するだけでなく、地域の大人と触れ合う機会もあります。また、ボランティア活動をすることで、住んでいる地域や学校について考えをきっかけにもなると思います。具



体的な活動を通して、価値ある気づきをもち、一人ひとりに学校や地域に対する視点の広がりがあることを願いました。

Qボランティア先は、どのように決めたのですか。

子どもたちは、「ボランティア」の意味を知ることから始め、学校や地域では、様々なボランティアが行われていることに気づきました。そして、ボランティア活動後に、どんな良い変化があるのかをイメージすることで、進んで「やりたい」と思うボランティアの内容を決めました。それを基に、学校支援コーディネーターの麻生小百合さんと、子どもたちの希望にそうボランティア活動を決定しました。

Q授業を進めるにあたって、心配なことはありましたか。

子どもたちが希望する内容のボランティア活動をするのができるのかを心配しました。子どもたちが「やりたい」と思う様々なアイデアを訪問先などに連絡して、活動の具現化を図りました。各施設や地域・保護者の方と話し合い、学習の意図を共通理解したことで、子どもたちの希望に近い、ボランティア活動を

することができました。授業前の話し合いや、準備を綿密に行うことの大切さを、改めて感じました。

Qボランティアの内容も、子どもたちが決めたのですか。

はい、そうです。学校や地域では、だが、いつ、どんな内容のボランティア活動をしているのか、どうしてボランティア活動をしているのかを考える話し合いをしたことで、自分たちができるボランティア活動の方針や地域の一人としての動機づけができました。モチベーションのある子どもたちの活動は、生き生きとします。各ボランティアグループで具体的な活動について話し合うことで、いろんなアイデアが溢れ出してきました。

Qボランティアは、全部でいくつになりましたか。

「花いっぱい運動」「老人ホーム訪問」「我が町良い所探し（PR活動）」「下学年・幼稚園とのかかわり・あいさつ」「エコ」「地域行事への参加」「寄付・募金」「地域清掃」「学校清掃」の9つです。これを20のグループに分け、活動しました。

Qどんな成果がありましたか。



今回、一番大きかったことは、地域・保護者の方が一緒に参加したということです。訪問先の方がたや学校ボランティアの保護者、付添いの保護者のみなさまが、子どもたちに

声をかけてくださり、活動への励みや称賛、そして価値づけをしてくださいました。

子どもたちが書いた活動後の感想やグループごとの活動報告の中には、ボランティア活動を通して、大人との関わりによる心の変化について振り返りができた児童が多かったことには、この授業の成果がよく表れています。

また、保護者や担任以外の大人と関わりを持ち、声をかけていただけて活動できたことで、子どもたちの感想は、とても生き生きしたものとなりました。

自分の住む町や通う学校を新たな視点で見出し、地域の一員として自分たちに何ができるのかを考える姿が見られました。

Q最後ひとこと、お願いします。

今後も、自分たちが育つ地域を意識した関わりの機会を求めて日々の生活を送れたら、様々な人への感謝の気持ちが生え、心の耕しとなると信じています。

地域・保護者のみなさまは、地域という土地で、小さな心の種を少しずつ育む実践への変わりぬ、ご理解、ご協力をお願いいたします。

地域清掃

「地域清掃」グループは、千歳鳥山駅周辺、学校周辺、給田4丁目公園 もぐら公園、UFO公園のごみを拾いました。地域の方がたや保護者と一緒に掃除することで、自分の住む町をきれいにした充実感が増し、知らない人からも「ありがとう」と言ってもらえた幸福感を味わいました。

給田4丁目公園チーム



地域のみなさんに
給田小の子どもたちが
紹介されました。

学校周辺チーム



鳥山地区青少年委員会会長 碓井博子さんの感想から

「鳥山の街をきれいにしたかった」という子どもの言葉には感動しました。一生懸命ごみを拾う子どもの姿を見て、大人たちが刺激され、街をきれいにしたいという思いが強くなりました。地域の大人がこうして様々な活動で地域とかわっているということ、子どもたちが一緒に体験してくれたことは私たちの励みになりました。



駅前チーム

鳥山地区青少年委員・PTA校外委員会のみなさんと一緒にごみ拾いを行いました。

「ごみを拾っていると、いろいろな人が「ありがとう」と言ってくれました。自分ほだんだん笑顔になれました。ボランティアをすることで、自分自身、ありがとうの気持ちをもつことがつれいす。(児童の感想)」



もぐら公園チーム



花いっぱい運動

「花いっぱい運動」グループは、グリーンサポーターズと一緒に、正門や体育館裏のヘチマや花の植え替えや害虫退治、雑草抜きをしました。学校美化に努める苦勞を味わいながらも、グリーンサポーターズの活動の意図を少しずつ理解できたことの意味は大きかったと思います。



グリーンカーテン作り、学校のみどりのお手入れとして雑草抜きや花の植え替えを行いました。

校内の緑を目学しながら活動内容を紹介しつつみんながなりたいこと、できることを考えました。



グリーンサポーターズの皆さんから一言 私たちが種から育てた苗を、子どもたちが大事そうに取り出して植えている様子を見て感激しました。給田の緑がこれからどのように出来上がっていくのか、楽しみです。ここで終わらず繋げていけるようにしていけたらと思います。

グリーンサポーターズの人と協力して、共同作業という感じで活動できました。終わってからもすごくほめてくれました。活動をしている間も、花を見て「きれいだね」と言っている親子がいてすごくうれしかったし、やって良かったなと思いました。また参加したいと思いました。

(児童の感想)

学校清掃

「学校清掃」グループは、学校主事さんと一緒に、廊下や階段の掃き掃除や壁の汚れ落としをすることで、毎日の作業の大変さや給田小を美しく保つことの大切さを実感したようです。6年生の活動を見ていた下学年も学校をきれいに使う気持ちをもってくださることを願っています。



学校主事さんから一言 びっくりするほど真面目に取り組んでくれて、とても助かりました。学校清掃に取り組んでいる6年生を下学年が見ていたので、学校を大切にしている気持ちが育つといいですね。みんなぜひいつもきれいな学校にしましょう！

児童の感想

◎大人とのあいさつや交流をもっとも自分から進んでいきたい。「ありがとう」が増えいき、地域の人が住みやすい地域にしていきたいです。

◎この学習をきっかけとして、昔のような地域が一体となっていた生活になれたらいいなと思います。

◎ボランティア活動を通して、新たな目標をもちました。自分や地域の方がたに、「この地域を好きになってほしい」と思っています。地域と関わる行事やあいさつに対して、積極的に関わっていききたいです。

この取り組みを通して、子どもたちは自分の住む町を自分の言葉で表現できるようになってきたように思います。

9月15日には、3年生が「地域安全マップづくり」に取組み、危険な場所などを探して校外で取材などの活動を行う予定です。地図やメモ帳を片手に活動する子どもたちを見かけたら声をかけていただけると活動が広がります。

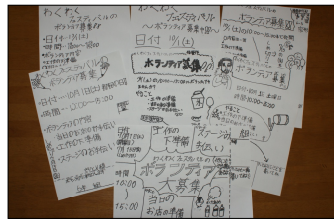
「理解」「協力」をお願いします。

※今回紹介できなかった「地域ボランティア」に取り組みたい他のグループは次号で引き続き紹介します。

わくわくフェスティバル2011

わくわくフェスティバル実行委員長
森本 明代

給田小こどもばやしの演奏が始まる、給田小PTA主催のわくわくフェスティバル。こども教年は夏に開催されていましたが、今年は10月1日の予定です。季節もいよいよ、屋外での出し物を多く予定しています。いつものわくわくの風景に、新しいものが加わるはずですので、みなさまどうぞ、お楽しみに。校内では、教室を使わず、オーブンスペースや特別教室を使っているいろいろな催しを行います。



今年が一番の特色は、6年生限定ですが、久しぶりに子どもも参加型になることです。「地域ボランティアに取り組もつ」の授業で、かかわってくれた子どもたちが作ってくれた手紙を配布し、児童も



わくわく委員のみなさんと企画会議

や販売のお手伝いを始め、どんなことができるのか、子どもたちと一緒に考えていきたいと思っています。授業で関わってくれた子どもたちがどんな形で参加するのか、それは、ぜひ、ご自身の目で確かめてください。わくわくフェスティバルで、お待ちしております！



ペットボトルに飾りをつけました

今月のわんこ 勝呂マロンちゃん・レオくん



マロン♀ 6歳
ミニチュアダックスフント (ブラック&タン)
性格・気が強く、社交的な美人ちゃん。
レオ♂ 5歳
ミニチュアダックスフント (クリーム)
性格・気が弱く、内向的なイケメンちゃん。
性格が正反対な二人に癒されています☆

給田小の子どもたちを見守る力つばみませんか
わんこ募集中です！
問い合わせは副校長先生まで

鳥山地域・あいさつキャンペーン

9月12日(月)～
16日(金)



鳥山地域の小中学校が中心となり、町ぐるみでのあいさつ運動を展開します。この期間、給田小の校門では7時50分頃から子どもたち、先生がた、PTAのみなさん、運営委員、わんぱつ、地域のみなさんが元気にあいさつをしています。今回は、鳥山中学校の生徒のみなさん(給田小の卒業生)が登校前に給田小でのあいさつキャンペーンに参加してくれます。どなたでも参加できますので、お時間をごさいましたら気軽に参加ください。また学校以外の場所でも子どもたちへの声かけをお願いします。

夏休み ラジオ体操

今夏のラジオ体操は10日間予定していたうちの5日間実施でき、子ども008名、大人108名、合計1094名の方に参加いただきました。未就学児はもちろん中学生が来てくれたり、転校した子もきてくれたりと朝から元気をいただきました。給田町会様、鳥山上町会様、体操を指導いただきました山田様、近隣のみなさま、ご協力ありがとうございました。PTA校外地域安全委員長 松藤 朋子

あとがき

私は本年度4月に副校長として着任しました。これまで副校長として2校経験しましたが、地域運営学校に着任したのは初めてです。でも、地域運営学校について以前学んだことがあります。それは、2008年に東京都教員等海外派遣でニュージーランドに訪問したことです。

ニュージーランドでは、すべての公立小・中・高校 Board of Trustees (学校運営委員会、以下、BOT) が設置されています。BOTは校長と教員、保護者の代表から構成され、1か月に1回程度開催されます。校長の学校経営方針の他、教員の採用や運営予算案、PTA行事などはBOTの承認が必要という仕組みです。この海外派遣で学んだニュージーランドの学校運営の仕組みは、その当時の日本の義務教育における「開かれた教育」「開かれた学校」の具体モデルであったのではないかと思います。

あれから8年後、私は地域運営学校である本校に勤務することになりました。着任から約7ヶ月間で私なりに感じ取った給田小学校の地域運営学校とは、「地域や保護者の方と学校がよりよい学校・地域にするために共に考える」であり、「よりよい学校・よりよい地域にするために、子どもと教師、教師と保護者、教師同士が共に語り合い、考え合う」中に地域運営学校の本来の姿があるように思います。

ニュージーランドのBOTと給田小学校の地域運営学校との相違点、共通点は何なのでしょう？ もちろん、文化的にも、制度的にも異なる点が多いと思いますが、私は、学校に係る誰もが「よりよい学校や地域にしていこうとする共通の目的のために、共に語り合ったり、考え合ったりすること」、そして「そこから導き出されたり、湧き出てきた思いや、具体をみんなが笑顔でわか合えること」は同じなのではないかと考えています。

ですから、私は本校の副校長として、この給田小学校、この町をもっともっとよくなるために、今後も、もっともっと多くの方と語り合い、考え合っていこうと思っています。「みなさん、たくさん語り合いましょー！」

学校運営委員会
事務局 片山 裕治